



2022年度

(2023年3月期)

第3四半期

決算報告

NSユナイテッド海運株式会社

2023年1月31日

目次

1. 2022年度業績ハイライト p. 2
2. 第3四半期決算の概要 p. 3-4
3. 2022年度通期見通し p. 5-6
4. 活動状況 p. 7
(ご参考) 財務アウトルック p. 8

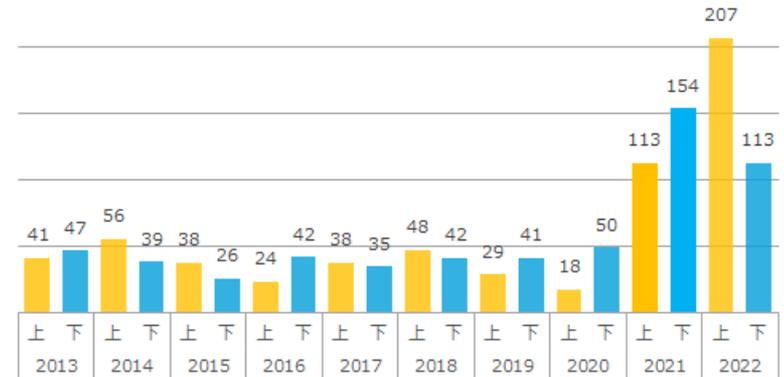
1. 2022年度業績ハイライト

業績の見通し：当期純利益見通しを270億円へ上方修正し2期連続最高益を更新

【単位：億円】 (連結)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
前回予想	2,170	290	300	260
今回修正予想 (ROE)	2,450	320	320	270 (21.2%)
前期実績 (2022年3月期)	1,959	267	266	236

※為替レート前提（年度末）：前回予想 135円、今回修正予想125円。

半期毎営業利益（単位：億円）



配当予想：期末配当は一株当たり185円（通期355円）を予想

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想	170円	170円	340円
今回修正予想	170円	185円	355円
前期実績 (2022年3月期)	95円	190円	285円

2. 第3四半期決算の概要

【連結】 (単位：億円)	2021年度						2022年度				前年度 同期比
	1Q	2Q	3Q	1Q-3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	1Q-3Q	
売上高	428	469	547	1,444	515	1,959	623	685	660	1,969	+ 524
営業利益	47	66	88	201	66	267	112	95	93	300	+ 99
外航部門	45	62	83	190	59	249	113	91	83	287	+ 97
内航部門	2	4	5	11	7	18	▲ 1	4	10	13	+ 2
経常利益	41	63	91	196	70	266	131	110	73	314	+ 118
親会社株主に帰属する 四半期純利益	36	52	71	158	78	236	105	89	59	254	+ 95

BCI 5TC市況推移(2021年4月～)



2. 第3四半期決算の概要

外航海運 世界的なインフレの加速、ゼロコロナ政策などによる中国経済の停滞で海上輸送需要が伸び悩むなか、検疫体制の緩和により長期滞船が縮小したことで船腹供給は緩やかに増加いたしました。海運市況は前年に対し落ちこみましたが、中長期契約による安定収益に加え円安が追い風となり、営業利益は前年同期比約97億円の増益となりました。

ドライバルク : 大型船（ケープサイズ）市況の変動が大きかったことに対し、中小型船市況はロシア・ウクライナ情勢を背景とした石炭、穀物輸送距離の長距離化が需給の引き締めにつながり、比較的安定して推移しました。

タンカー : 大型LPGタンカーは、夏場には船舶需給が緩和し市況が低下しましたが、秋口頃から北半球の冬場の需要期を見込み上昇に転じたことで、総じて堅調な推移となりました。

内航海運 鉄鋼関連、電力関連貨物輸送量は国内粗鋼生産減少や火力発電所の稼働率低下等を背景に前年同期比で減少しましたが、セメント関連貨物輸送量が増加しドライバルク全体としては横ばいとなりました。タンカーの輸送量は新規航路における輸送が本格化したことで増加し、内航部門の営業利益は前年同期比で約2億円の増益となりました。

以上により、当第3四半期の連結業績は営業利益300億円（前年同期比99億円増）、経常利益314億円（前年同期比118億円増）、四半期純利益254億円（前年同期比95億円増）との結果となりました。

3.2022年度通期見通し

【連結】 (単位：億円)	2021年度 通期 (実績)	2022年度 (前回予想)			2022年度 (今回予想)		
		上期 (決算)	下期 (予想)	通期	上期 (決算)	下期 (予想)	通期
売上高	1,959	1,308	862	2,170	1,308	1,142	2,450
営業利益	267	207	83	290	207	113	320
経常利益	266	241	59	300	241	79	320
親会社株主に帰属する 当期純利益	236	194	66	260	194	76	270

	2021年度 通期	2022年度			2022年度		
		上期実績	下期前提	通期	上期実績	下期見通し	通期
為替	¥111.50	¥130.83	¥135.00	¥132.92	¥130.83	¥136.33	¥133.58
燃料油価格 (全油種平均)	\$500	\$705	\$660	\$683	\$705	\$560	\$633
市況 ケーブサイズ	\$32,733	\$17,520	\$15,000	\$16,260	\$17,520	\$12,000	\$14,760
パナマックス	\$28,089	\$21,743	\$16,000	\$18,872	\$21,743	\$14,000	\$17,872
スモールハンディ	\$27,585	\$22,995	\$15,500	\$19,248	\$22,995	\$11,000	\$16,998

※ 為替は1円の円安で約2億円/4Qの経常増益

燃料油価格は脱硫装置を搭載した船舶で消費する高硫黄C重油を含む全油種平均価格

4Q見通し	
為替	¥128.33
燃料油価格	\$520
市況 ケーブサイズ	\$9,500
パナマックス	\$12,000
スモールハンディ	\$7,500

3.2022年度通期見通し

業績の見通し：昨年度を上回り過去最高益を更新する見込み

- 1月以降のドライバルク市況は、雨季に入っているブラジルからの鉄鉱石輸出が停滞するなど季節的な要因により例年軟化しますが、当社ではかねてより大型船型（ケープサイズ）を中心とした安定収益基盤の拡充に注力してきたことに加え、中小型船型につきましても中長期輸送契約の獲得を進めたことで市況下落への耐性が高まっています。
- 昨年10月末に発表しました業績見通しでは為替レート前提を下期期中平均135円、年度末135円としておりました。今回の業績見通しでは昨今の円高傾向を受け為替レート前提を4Q期中平均128円、年度末125円に修正しますが、第3四半期（10～12月）の円安進行により下期期中平均は136円と前回業績見通しにおける為替レート前提よりわずかながら円安となっております。
- これを受けまして2022年度通期の連結当期純利益は過去最高益となる270億円を予想、2期連続の最高益更新となる見込みです。（前回予想260億円から上方修正）

配当予想：期末配当予想は一株あたり185円（通期355円）

- 当社は株主への利益還元を経営上の重要な施策の一つとして位置づけ、2018年度より中間配当を実施。2022年度も一株あたり170円の中間配当を実施いたしました。今般、通期業績予想見通しに基づき、前回170円としておりました期末配当予想を一株あたり185円といたします。

4. 活動状況

アンモニア燃料船の基本設計承認を取得

当社はこのたび、関係各社と共同で、一般財団法人日本海事協会（ClassNK）より、アンモニア燃料船（載貨重量20万トン級大型ばら積み船）の基本設計承認（Approval in Principle、AiP）を取得しました。

本AiP取得は、海事関係者の新たな挑戦であるアンモニア燃料船を社会実装するための重要なマイルストーンであるとともに、当社の環境目標「2050年までにGHG排出ネットゼロ達成」に対しても重要なステップとなります。今後、AiPを取得した基本設計をベースに本船開発を進め、2026年をめどに竣工・社会実装開始を目指します。



（アンモニア燃料船イメージ）



原料輸送船でバイオディーゼル燃料による試験航行を実施



（M.V. RISING WIND）

当社はインドの大手鉄鋼メーカーであるTata Steel Limitedと共同で2022年12月、シンガポールにてパナマックス型バルカーRISING WINDへバイオディーゼル燃料を供給し、公海上およびインド領海内で試験航行を実施しました。当社で同燃料による試験航行を行うのは3隻目となります。

今回試験航行に使用した燃料も廃食用油を原料に精製されており、従来の化石燃料と比べて燃料の生産から消費までのライフサイクルを通した温室効果ガスの排出削減効果が期待されます。またInternational Sustainability and Carbon Certification（ISCC）を取得しており、原料のトレーサビリティを確保しています。

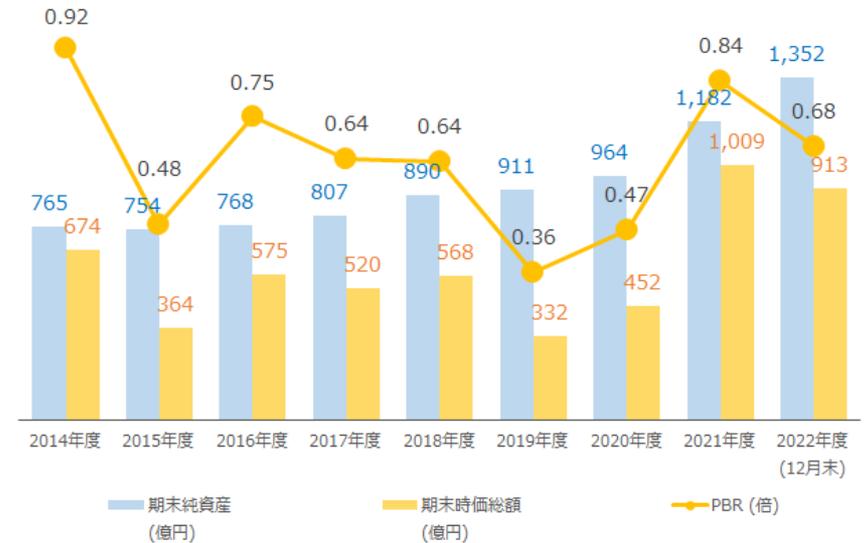
(ご参考) 財務アウトック

当期純利益と期中株価の推移



注) 当期純利益は予測値
株価は4-12月実績

期末純資産・時価総額

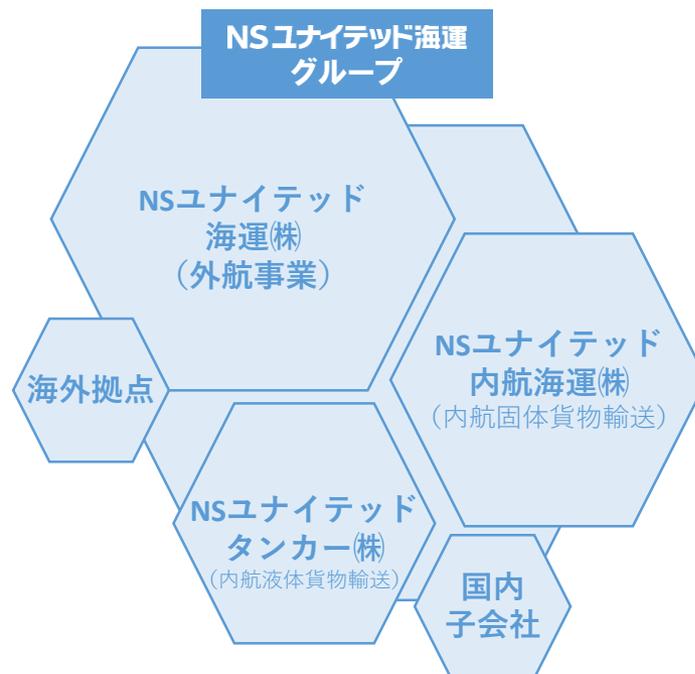


NSユニテッド海運株式会社

NSユニテッド海運グループは、
誠実で良質な海上輸送サービスの提供を通じて
社会の発展に貢献します。

(本資料に関する注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。



当社ウェブサイト：<https://www.nsuship.co.jp>

本資料についてのお問い合わせ先：03-6895-6411